

ふくしま県人会だより

第25号
平成24年1月
福島県人会
北海道連合会

前を向いて

会長 熊坂 成剛



県人会の皆様お元気で新年を迎えられたことと思います。今年も健やかな裡に健康の喜びと御家内一同様のお幸せな一年を過ごされることを祈念いたします。

さて、被災者の皆様の新年はいかにお迎えになられたでしょうか、大震災の一年と原子力発電所の事故と二重三重のご苦労をなされ数々の悲しみにあわれた方々には語りかける言葉もない心の内です。せめて御家内一同が健やかに新年を迎えられることを祈るばかりでございます。

昨年末の一年を表す文字は「絆」

でありました。県人会の皆さんも故郷を思うときそれぞれの胸中にこの「絆」の文字の持つ重さを感じられた事と思います。私どもが推察することのできない近寄る事の出来がたいものもありましょう。

私どもはこの驚愕の域を超えた震災・原発被害のニュースにいかに胸を震わせたことでしょうか、微力な県人会北海道連合会は励ましの心を胸に持ちつつ、全体としてあるいは各地域の事情の中で精いっぱい支援に取り組んできました。

今年は無事だった昨年の大会を完全実施できるようにして行きたいと考えております。担当県人会の一層のご尽力をお願いします。

原発事故の第二段階の収束のニュースもありましたが、現実的には復興の端緒にもついていないのではなにかと思います。佐藤知事が寝食を忘れて取り組む姿もテレビに報道されておりますが、県民一人一人が、

私達の親戚知人友人皆が元の住まいに戻らない限り復興は終わらないと思います。がんばれ福島、けっぱれ福島です。

今年の県人会は、福島県の復興再生の一年であろうと思いい私達にとっても県人会も新たな一歩となるような年にしたい、その取り組みを模索したいものと思えます。

「前を向いて歩む一年」にしたいと考えます。皆様のご協力をお願いいたします。

福島県の復興に向けて

福島県知事 佐藤 雄平



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昭和四十八年の発足以来、皆さんの県人会が、ふるさとを同じくする方々の心のよりどころとして、会員

相互の交流を深めながら、着実に発展を続けられておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、会員の皆さんのふるさとを想う御熱意に心から敬意を表します。また、皆さんには、日ごろそれぞれの分野で御活躍され、福島県の名を大いに高められるとともに、本県に対しましても格別のお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年三月に福島県は未曾有の大地震、大津波、原発事故、風評被害にみまわれ、これまで私を先頭として県では、直面する課題の一つ一つ丁寧に、誠心誠意を尽くして対応してまいりましたが、現在に至っても、新たな課題が次々と生じてきております。

このような中、福島県人会北海道連合会の皆さんを始めとして、全国の多くの方々や団体などから多大なるご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年十二月には、本県の羅針盤となる「福島県復興計画」を策定いたしました。

どんなに風が吹き荒れ、苦しい時が続いても、「朝の来ない夜はない」と申します。

どんなに雪が深い北国にも必ず暖かい春が訪れるように、きつと前途には明るい灯りがともります。

福島県が「明るい朝」を迎えるため、本年を「復興元年」として、福島県復興計画に基づく県政運営に全力で取り組んでまいります。

復興計画の基本理念である「原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり」「ふくしまを愛し、心を寄せるすべての人々の力を結集した復興」「誇りあるふるさと再生の実現」のもと、安全・安心な暮らしの確保や社会基盤の復旧・整備、産業の振興、それに伴う雇用の維持・創出等に取り組み、美しく豊かな県土を取り戻し、「新生ふくしま」を創り上げてまいります。

「福島に生まれて、福島で育って、福島で働いて、福島で結婚して、福島で子どもを産んで、福島で子どもを育てて、福島で孫を見て、福島でひ孫を見て、福島で最期を過ごす。それが私の夢なのです」。これは昨年八月に本県で開催された第三十五回全国高等学校総合文化祭の総合開会式で披露された構成劇でのメッセージです。

明日のふくしまを担う子どもたちが、元気に、明るく、それぞれの夢に向かつてはばたけるように、県民一丸となって困難を一つ一つ克服してまいります。

「何もかも失われたときにも、未来だけはまだ残っている」という言葉があります。

確かに多くのものを失いましたが、今、私たちにできることは前に向かって進むことです。

子どもたちの明るい笑顔があふれる「新生ふくしま」の創造に全力で取り組んでまいりますので、県人会の皆さんのなお一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない発展と、会員の皆さんの御健勝、御活躍を心からお祈りいたします。年頭のごあいさついたします。

会員通信

母県からの避難者との

懇談会を開催

函館県人会 古山 利勝

母県からの避難者に対して市から当会へ支援要請があったことについては、「県人会だより二十四号」でお

知らせしましたが、その後、避難者は四十二世帯までに増えました。

初めての冬を迎えるにあたり何かと気苦労も多いのではと十一月三日に避難者との懇談会を当会会員の料理店で開催しました。当日は当会から熊坂会長以下十一名、避難者からは十

世帯二十八名(大人十八名、子供十名)が参加。県北海道事務所からは川島次長に参加いただきました。参加者はイ力刺付きの昼食を共にしながら現状や要望などについて語り合いました。

熊坂会長は「同郷の者としてお手伝い出来ることがあれば気軽に相談願いたい。こうした場を通して知り合いができ、生活の励みになれば」とあいさつしました。

参加者からは、「近所の人がよくしてくれるので助かっている」、「冬の寒さで小さい子供のことが一番心配。自身の車の運転も気がかり」、「隣の席の人が福島でも隣の地区に住んでいる人と分かり驚いた。みんな初めての人だが懐かしい気分になった」などの声

が聞かれました。要望としては早く仕事に就きたいとの声が強く出ました。原発事故に伴う放射性物質の除染や正確な情報の提供などの要望も出

されましたが、オブザーバーとして参



懇談会で熊坂会長から歓迎のあいさつ

加の逢坂誠二衆院議員(民主党)は皆さんの声をしっかりと国政の場で伝えたいと話していました。

また、欠席者からも、案内をいただいたことに対する感謝のことばや次の催しにはぜひ参加したいなどのメッセージが添えられていたので、一月の総会後の新年会にも避難者の参加を呼びかけています。

ふるさとに思いを

旭川(ペーパン地区)県人会

馬場 幸子

秋も終わろうとしている十一月末、仲間を集い十一名(内二名は新聞記者とカメラマン)で伊達市・南相馬市を訪ねました。

思えば三月十一日以降災害状況を放送するテレビの前から離れられず、

なにもできず、せいぜい知人に牛乳や納豆を送る程度でした。それでも四月には福島の子供達を受け入れようと活動に参加して、県事務所の方

にもアドバイスをいただき、また、旭川県人会の方にも励ましやご支援をいただき、七月中旬に南相馬から二十五名の親子がやって来て一週間ほど過ごして行きました。(私の住むペーパン地区は、明治三十一年に伊達市の方々の団体入植で開拓された土地で、今も故郷と交流が続いています。七月のものの消費拡大で来旭された伊達市長とは秋の再開を約束していました。)

伊達市に着いて最初におどろいたのは柿です。干柿にするとセシウムの濃度が高くなるので加工できないとのこと。樹は一本ずつ除染され、地面ははぎ取るとのこと。気の遠くなるような作業がつづくのです。市役所の前には線量計が設置されていました。直売所では野菜が売れ残っていて、旭川の半値以下です。子供がいる家庭では県外のものを用意するとか。この頃米からもセシウムが検出されたということで農業がなり

たたないのではないかと思ってしまいました。

翌日は南相馬に向かいましたが途中、飯館村に人影はなく放逐されたのか馬や牛が枯れ草を食むようすがあわれでした。

鹿島地区では八幡神社の宮司の西道典(にしみちのり)さんたちが出迎えてくれました。(「こどものつばさ」を立ち上げ南相馬市の子供たち千人を全国へ送り出した事業の中心となった方です。)神社の近くには二千戸の仮設住宅が行政区ごとに立ち並んでいました。

ペーパンに来ていた子供さんに面会するため鹿島小学校を訪れましたが、一つの学校に七校が寄せ集まっている状態でグラウンドは仮設校舎でうまつています。そして子供たちの胸には線量計がゆれていました。夏のペーパンで小川を見つけた子供たちが、いきなり飛びこんで遊びだした気持がいたいほどわかりました。

国道六号線を少し海寄りに進むと、田んぼの中、畑の片すみ、道路の側面にといたるところに船が横たわっているのです。低地では数キロも津波が来たとのこと。鹿島の港町があったところは、すでに瓦礫が片寄せ

られ草木一本、家一軒もなく大きく破壊されているのです。西さんが高台を指さして「あそこまで逃げられた人は助かったんだが」と。五十隻の船のうち無事だったのは四隻だけだったとも。

海岸通りを原町区へ向かったがいたるところ瓦礫の山だらけでした。警戒区域の標識のある場所まで案内されましたが出て来る車の人たちは防護服にマスクという物々しい姿でした。

この目に見えない放射能から生活を守る戦いはいつまで続けなければならぬのか。色々なことを深く考えさせられました。そして大変多くの方にお世話になった旅でした。

小さなグループでも良いから故郷を訪ねましょう。それは間違いなく活気を生み出す行動だと思います。

「苦小牧福島県人会旗」製作の想い出

苦小牧県人会 神野 修

苦小牧福島県人会は、一九八九年(平成元年)第四十四回国民体育大会(ハマナス国体)に出場する母県選手の手応援に馳せ参じた福島県出身者で県人会創立の話が盛り上がり、同年に設立されました。その後、一九

九八年(平成十年)に苦小牧市制五十周年の苦小牧港まつりの協賛としてポートカーニバルに郷土芸能の参加を要請され、苦小牧福島県人会は会津若松市からミス会津を招いて白虎隊を市民に披露したところ、沿道や祭り会場の観客から大喝采を受け、さらにこのカーニバルに同じく出場していた苦小牧の東北六県県人会の意見がまとまり、苦小牧東北六県県人会連合会を結成することとなりました。

「苦小牧福島県人会旗」製作のきっかけは、苦小牧東北六県県人会連合会創立祝賀会において会場正面に



各県人会旗を掲出することとなりましたが、当県人会では県人会旗がなく、北海道事務所から「福島県旗」を借りて掲出しその場を凌いだのですが、何か寂しい気持ちになり、二〇〇三年（平成十五年）の県人会創立十五周年記念事業の一環として会員の寄付と協賛金により「苫小牧福島県人会旗」と「苫小牧県人会祥纏」を製作しました。

現在、「苫小牧福島県人会旗」は、県人会総会や東北六県県人会連合会の集まりに掲出しますが、県人会旗を見る度に当時のポートカーニバルの郷土芸能祭や、東北六県県人会連合会創立祝賀会等を思い出します。



（波のデザインは、福島県と苫小牧市を結ぶ太平洋の波を、細い波二本は「福島県」と「苫小牧福島県人会」、太り波三本は福島県の「中通り」「浜通り」「会津」をイメージしました。）

兵頭（ひょうどう）ニーナです

稚内県人会 兵頭 ニーナ



この度、御縁があつて稚内福島県人会に入会いたしました。皆様よろしくお願ひします。

私は、一九四五年日本人の父とロシア人の母との間に満州国ハルピン市で生まれました。生後十ヶ月で日本に引き揚げ、その後、父の生まれ故郷の相馬市中村に移り住みました。

十四歳からギターの勉強を始め、一年後にフラメンコ界の第一人者「高田健三」氏に弟子入りし、二十歳の時、新宿にオープンしたフラメンコショーを見せる「ギターラ」に入店しました。二十二才の頃、ギター弾き語りに転向。三十歳の時、銀座に自分のお店を開店し、以後二十五年間経営しました。毎日店で唄っていますとスカウトされ、NHKロシア語講座の「今月の歌」コーナーで唄い始め、これをきっかけに一九八

二年レコードデビューしました。三枚目のレコードでは「百万本のバラ」をロシア語と日本語で発売し、後に、親同士が親しかった加藤登紀子さんが「百万本のバラ」を歌いより全国的に広められました。

一九八七年フリーとなり、各地劇場でのコンサート、ホテルやレストランでのディナーショー、豪華客船ASUKA、築地本願寺、ホームコンサート、結婚式などで唄い、一九八九年には当時在住していた浦安のため「ラブリー浦安」を作詞・作曲して発表しました。

二〇〇三年、中国革命にまつわる「としこ」作曲し、中国の楽器「二胡」を入れたCDを作成。二〇〇五年「百万本のバラ」の主人公ピロスマニの国グルジアへ遊学し、一年半後に帰国し稚内に拠点を移しました。

二〇一〇年八月には念願のサハリンでのコンサートを実現することができ、十一月には作詞・作曲の「ふるさと稚内」のCDを発表いたしました。二〇一一年五月には地震や津波の被災地、福島県内六か所を訪れて参りました。

現在、ロシア料理「ペチカ」の店

長をつとめながら毎日唄い、自然豊かな稚内の暮らしを満喫していません。ぜひ「ペチカ」においていただき、美味しいロシアの家庭料理と私の唄を堪能して下さい。お待ちしております。

【ロシア料理「ペチカ」】

キッチンにはロシア人のシェフがいます。代表的なメニューはピロシキ、ボルシチ、ペリメニ、串焼きのシャシリーク、ロシア漬け、黒パン、ウオッカ、ロシアビール、グルジアワイン等です。二年前、テレビや新聞で全国的に紹介された結果、ピロシキ、黒パン等についていくつもの問い合わせがあり、また、本州からわざわざ稚内まで出向いてくる人もたくさんいます。

開店は午後五時から、ラストオーダーは午後十時三十分。収容客数は約二十名です。

〒〇九七・〇〇二二

稚内市港一丁目六番二八号

稚内副港市場内 屋台村波止場横

電話 〇一六二・二三七〇七〇

アクセス 稚内駅から徒歩二〇分

サハリン

大陸横断挑戦の軌跡【前編】

稚内県人会 阿部 勇



江戸時代の探検家「間宮林蔵」が文
化五年五月（一八〇八年）樺太探検を
命ぜられ、この最北端の地宗谷から旅
立ち「間宮海峡」を発見しました。

それから一九〇年（平成十二年時
点）の時を歴た今、流水の海峡の犬ぞ
りによる横断に挑戦した稚内発の冒
険家「阿部 勇」（当時四九歳）走れ！
流水の間宮海峡「平成の林蔵犬ぞり三
〇〇キロの記録」（二〇〇〇年三月二
十二日〜四月三日）を紹介します。

【短足の冒険家元気に出発】

春まだ遠い平成十二年三月二十一
日夜、市民有志二二〇人が集まり「間
宮海峡横断犬ぞり横断三〇〇キロ」の
壮行会が盛大に開かれました。横田マ

ツシャー（当時稚内市長）より「短い
足で犬ぞりに負担を掛けないように」
と稚内初の冒険家に力強い励まし
の言葉を頂き、この冒険旅行取材する
テレビクルーと供に出発しました。

函館空港からユジノサハリンスク
へ飛び、その後、汽車と車乗り継い
でオハ市を経由し二日がかりの移動
の末、サハリンで但一人となった犬ぞ
り使い、リユーピフさんが住む北サハ
リンネフラスカ村に到着しました。リ
ユーピフさん夫婦と再会するや早速
ウォッカで乾杯、夜の更けるのも忘れ
ロシアと日本の犬ぞり使いは語り合
いました。



リユーピフさんの友人と夕食会

【三月二十七日（月）】

出発です。犬達はハーネスを付けら
れると、長旅が判るのか元気に吠え身
体を揺らします。天気は快晴、風もほ

とんどなく気温はマイナス十七度ぐ
らいで寒さはそんなに感じない。「さ
あ、出発だ！」リユーピフの鋭い掛け
声「タタターツ」十二頭の犬達が一斉
に走り出す。およそ三〇〇キロ対岸の
大陸側ハバロスク州プーイル村を往
復する三泊四日の旅が始まりました。
犬達は三〇〇キログラム以上になる
重いそりを力強く引き、林を抜け海岸
を目指し走り続けます。海岸線の流水
を縫うように進むとリユーピフさん
が鋭く「ポロロ（止まれ）、雪に隠れ
たクラック（裂目）だ」と叫ぶ。ピタ
リと止まる犬達。流水原の恐ろしさを
身を以って知った時でしたが、私には
見えないクラックを察知するリユー
ピフさんはただの犬ぞり使いではな
い。五時間三十分、約六十五キロ走り
ルギー村に到着しました。ルギー村は
北方民族ニピフの四家族十名が住み、
今夜泊めてもらうセルゲイさん宅で
はウォッカで熱烈歓迎を受けました。

【三月二十八日（火）】

いよいよ間宮海峡を渡り大陸のプ
ーイル村を目指します。リユーピフさ
んが「今日の旅は遅くまで走ることと
なる」とポツリとつぶやいた。セルゲ
イさん夫婦の見送りを受けて海岸線
を南下しました。

横断コース



日本時間の五時少し前に中間地点
につきました。小さな島だと思っただ
は乱氷の山で、高さは十五メートル以
上はあるでしょう。やはり間宮海峡の
上だ。海流が流水をぶつかり合わせた
力は凄い。間宮海峡を四時間三分で
渡り日本時間で七時四十五分、大陸側
のプーイル村の明かりが見えました。
サハリンから厳冬の時に間宮海峡
を渡って来た日本人はあなただけで
すと、プーイル村で熱烈な歓迎を受け
ました。今夜も「スパシーバー」と「カ
ンパイ」の嵐で交流の絆は深まります。
そろそろ私は「スパコイノーチェ（お
やすみ）」です。【後編(次号)に続く】

新会員紹介

札幌福島県人会

梶川裕史(福島市)

新城俊則(会津若松市)

高萩健(いわき市)

玉川利衛(会津若松市)

本間英太(北海道)

工藤早苗(北塩原村)

函館福島県人会

星育夫(下郷町)

旭川福島県人会

上野清喜(西会津町)

上野清子(西会津町)

斉藤千絵(白河市)

稚内福島県人会

兵頭二一(相馬市)

苫小牧福島県人会

田島勉(川俣町)

菊田美穂(伊達市・旧保原町)

OBからの便り

思い出の北の大地

第十七代所長 齋藤純一

新しい年の門出をお喜び申し上げます。
ます。

ただ、大震災や原発事故による混乱や不安を持ち続けたまま迎えた新

年でもあります。

あの日から十ヶ月余が経ちました。多くの場合、時の経過が悲しみや不安を少しずつ和らげてくれるものだと思うのですが、今回は否応なしに桁違いの時間を必要としております。明るさが見えない濃霧であっても一歩一歩前に進むことが大切だと思えます。

さて、思い出深い北海道勤務から戻り早二年が過ぎようとしております。

思い起こせば、紋別、美幌、札幌での各連合会総会や強い「絆」をもつて開催されている各県人会の総会、イベント等において、皆様の大きく暖かい心に触れさせていただき、楽しく仕事に取り組みすることができました。

北の大地にも季節が巡り、ライラックはじめ様々な花々に囲まれた時季がやはり一番かもしれません。氷点下のしばれる時を楽しむイベントも格別でした。さつぼろ雪まつりを見てスキノで飲むのは定番ですが、層雲峡氷瀑まつり、支笏湖氷濤まつり、然別湖コタン、糠平湖上横断によるタウシユベツ橋梁見学等々、雪と氷と光の芸術を見て、温

泉に入り、旬の魚を食べ美味い酒を飲む、これほどの贅沢はありません。

昨年九月初旬、北海道を訪れました。あいにくの台風通過により、メインの十勝川温泉をキャンセルせざるを得なくなりましたが、札幌駅前通地下歩行空間のイベントを見たり、「札幌市建設の地碑」があり、安田侃氏の彫刻や大友亀太郎ブロンズ像が設置された創成川公園の散策を楽しみました。

また、復元された五稜郭箱館奉行所を見るため函館まで足を伸ばしました。建築の粋を集めた建物の偉容と周りにそびえ立つアカマツが印象的でした。

昨年末には、北海道新幹線の札幌延伸の着工方針決定の報道がありました。数年後の新函館までの開業が予定されており、全線開業は数十年先でしょうが、その暁には新生なつた福島との様々な交流がさらに広がること期待できるものと思えます。

終わりに、各県人会の皆様にとつて健康で幸多き一年でありますとともに、道連合会の限らない発展を心からお祈りいたします。

編集後記

第六十三回さつぼろ雪まつりに会津鶴ヶ城の雪像が展示されます。

雪まつり

二月六日(月)～二月十二日(日)

展示場所

大通公園西八丁目HTTB広場

雪像制作担当 陸上自衛隊

制作 福島県&HTTB(北海道テレビ)

その他

福島県と北海道の絆や雪像制作を紹介する番組が制作されます。

放送予定時間 二月二十五日(土)

十五時五五分～十六時五五分

HTTB、KFB(福島放送)

是非、ご覧下さい。



昨年11月結婚式出席のため
横浜山下公園にて